

正月八日

千客萬来

目出度

大々入家納

ナシナ

●●○ 津屋(つや)

シナナ

○●○ 多賀(たか)

ナナナシ

●●○ 多ゑ(たえ)

ナナシ

●●○ 登き(とき)

ナナシ

●●○ きん

カナカシシ

●●○ 飛で(ひで)

カナカナシ

●●○ 百(ひゃく)

カナシシ

●●○ 奈尾(なお)

カカシシ

●●○ 哥(うた)

カ

■ 幸(こう)

×三拾五人

通兼候得共、御揃弥御安意

玆重御儀奉存候、然者下拙義

備後表出立之砌者、彼是

御厄介相成、忝奉存候、其後も

書状を以様子柄御尋

可申処、彼是取紛、延引

仕候段、御高免可被下候、此度

御代官病死二付、去ル朔日

日割通、道中無滞、帰府

仕候間御安心可被下候、扱承候処、

貴家二も先頃より府中二而

旅籠屋渡世被致候由

何寄以大慶之至二御座候

餘り久々貴面も不仕候間

若、御当地、御出も御座候ハ、

御立寄可被下候

一、先年厄介相成、野火止村  
名主庄右衛門方ヨリ年々

茶取寄参候処、当時

右庄右衛門、別条無、御座候哉

今以、茶商ひ仕候ハ、

別紙書付之通、早速、差越候様

御申遣被下候様二者相成

間敷哉、何分宜奉頼

右之段、時候見舞旁

如此御座候、余者拝眉之節

委細可申上候、早々以上

八月十六日 木下進五郎

萬五郎様へ

尚々気障相伺御凌候も乍憚

御家内江宜御鶴声可被下候、以上

覚

武州高麗郡飯能村組合

黒田豊前守様御領分

同州同郡小岩井村字釜ノ入

百姓 勇蔵悴

与五郎

丑 二十七八才位

右之者同頭業躰<sup>マ</sup>左之通り

御座候

親不孝

農業ヲ怠

大酒ヲ致

喧嘩口論好

勝負事ヲ好

右之通り方致、親、外親類共

勿論、村方一同難渋仕候、尤当人

者少々氣拔二御座候

九死一生之病氣  
悴安五郎以申上候

秩父郷一件之儀者、品々風  
御座候亭、**睨**与探索、**行登**  
**どかず**候得共、右別紙之通

山口旦那様、中仙道深 \*八州廻りの山口頭之進

御出役先二而申上候、尤書「面」  
之儀者実定不仕候間、口「上」

二而申上候、左二御承知被下

細之儀者**何れ**母病気様

次第参以可申上候

別紙十七三郎儀者存外 \*「じゅうしちさぶろう」?

**仕来**ニ御座候二付、貴家様

申上候間、宜敷御取斗二奉

願上候、尤小細之儀者安五郎ヨリ

御聞可被下候

一別紙**与五郎**儀者村方難

渋仕候間、**御召押**之上者、一先

是非々々御勘弁御下ケニ相成

候様御取斗奉願上候

右之条々宜敷様、御取斗

之程一重二奉願候、先者取込

早々用事而已、御用捨

被下候、**恐惶謹言**

六月九日 森太郎 拝

親分様

一囚人之内、下方仕磯松始末  
左二

此者儀者外二名倉村山才

\*小鹿野町名倉

与申者忝忝人、但シ名面不知

同森新右衛門忝忝人、名面不知

都合三人二而下座相勤罷居

✕✕御手入二相成、磯松忝人

\*切れて読めず

御召押二相成、右両人者逃去候

二付、始末磯松二申立られ而者

難儀ゆへ、金子差出シ候由

但シ磯松儀者御召押二相成

候節者津むぎ小袖式舞程

着致居候二付、左候而者百姓之

身分二而小袖着致候而者、相済

不申趣申之、右磯松実父

外二新右衛門、山才、磯松養子先

之組合、右之者共相談之上

金子式十両程才覚致、下

小鹿野村字泉田組頭之

太左衛門、同村同甚左衛門（カ？）

相頼ミ、此金入用ニ致、出方の  
者を結ひ、木綿着物ニ引替

呉候様、相頼之候ニ付、兩人右金子

受取、本庄宿江持参致、六七日

\*本庄宿〓本庄市

逗留致居、右金子不残つかひ

拂、其上ニ而、出方菊次郎、直吉、右

\*出方〓岡っ引

兩人取斗ひニ而木綿着物ニ

きせ替候由

但シ菊次郎、直吉儀者、其節

何程歟、取候様子、未夕実事

相分兼候

但シ右新右衛門、山才兩人者

心正向余程宜敷者ニ

御座候

此外風聞之儀者品々

御座候得共、何分御用心

ニ不相成候ニ付、右の通

探索仕、書面ニ而申上候

尤外者口上ニ而申上候

武州秩父郡長留村

芝居一件内金ヲ以、取結ヒ

候風聞内探、左二御座候

一、当二月中大宮郷御廻村先江

被召出、皆御差止メ二付一ト先者

相止メ候処、若者共之内、心得違

之者有之猶企候、最初者

村一同之所、後二者、其内拾五人

程相談相洩候二付、外若もの

共茂夫々内金ヲ以取結ヒ

是非共致度、存外二而金子

才覚致、村内本山修験宝

蔵院並御手入之節、御召押

相成候囚人重兵衛、右兩人ヲ

相頼ミ金八両相渡シ候二付、右金

持参致、大宮郷出方藤右衛門

吉田村新八、小鹿野出方弥作

右三人之者江金貳両ツ、遣シ候而



是非々々芝居催致度候間

萬一、御出役様御聞込、御手入

二も相成候様子有之者、宜敷

頼与申之候処、我等共承知

之上者大丈夫二候間、可致与

三人同様之挨拶致候二付

企致候由

一、般若村大惣代藤十郎、金崎

\*金崎村||長瀬の方

名主宮前平八、同左右衛門

右之者儀者追而落着之節

謝礼可致与申候而遣未夕

不遣候由

一、八幡山出方藤太郎儀者

\*八幡山||本庄市児玉

左二御座候

大惣代藤十郎、御手入之節

二者出府之趣申立候而、其節

小鹿野村✕田与申旅籠や